

件名	令和4年度 第2回福井市障がい者自立支援協議会（全体会）報告書		
日時	令和5年2月14日（火）14:00～15:40	会場	福井市旭公民館1Fホール
出席者	別紙（委員名簿） ※傍聴者：1名		
欠席者	紅谷委員（医療）		
次第	1. 開会 挨拶：平谷会長 2. 議事 (1)各専門部会・連絡会における令和4年度の実施状況報告及び令和5年度の実施方針について <span style="float:right">資料1</span> (2)令和4年度運営会議における協議内容の報告について <span style="float:right">資料2</span> (3)令和5年度全体会及び各専門部会の構成（案）について <span style="float:right">資料3</span> (4)日中サービス支援型共同生活援助事業所の実施状況報告及び評価について <span style="float:right">資料4</span> 3. その他 令和4年度地域生活支援拠点事業の実施状況報告及び評価について <span style="float:right">資料5</span>		
議事内容等	(1) 各専門部会・連絡会における令和4年度の実施状況報告及び令和5年度の実施方針について <span style="float:right">資料1</span> 【各部会の報告】 ○居宅生活支援部会：令和5年度の実施方針等は資料の通り ・強度行動障がい支援者学習会においては、困難事例を出し合い、話し合う中で改善が図られ、効果が見られている。この支援課題については、令和5年度においても継続的に実施していくことが望まれているが、この部会だけの課題ではないため、自立支援協議会として継続し、居宅生活支援部会として、これに協力していくつもりでいる。 ・人材がなかなか集まらない課題解決に向け、人材確保・育成やネットワークづくりについても、令和5年度は考えていきたい。 ・【みつけよう！じぶんのやりたいこと・障がい者のためのクラブ・サークル紹介】と称した余暇活動冊子更新はほぼ完了し、ホームページにアップの予定で、更新はホームページ上で今後も行っていく予定。 ○こども部会：令和5年度の実施方針等は資料の通り ・相談支援事業所に対するアンケートであったが、次年度は障害児通所支援事業所に向けたアンケートを行った後に、課題検討を行っていきたい。 ・学校教員向けの研修会を開催するとともに、小学校から中学校、中学校から高校等への移行のところで教育と医療・福祉が話のできる場をきちんと作っていかないといけないというところで合意を得ている。 ・こども部会では、適時課題が挙がってくるため、これも取り込んで協議していきたいと考えている。 ○就労支援部会：令和5年度の実施方針等は資料の通り ・事業種ごとのネットワークミーティングを開催している。B型においては、自立支援協議会から挙がってきた強度行動障がいに関するアンケートをもとに、B型で何ができるか等について事例をもとに協議した。A型においては、自立支援協議会の機能について改めて確認を行った。 ・次年度は経験の浅い職員や新人の交流に視点を置いたネットワークミーティングを開催していきたい。 ○地域移行・地域定着部会：令和5年度の実施方針等は資料の通り ・民生児童委員協議会向けの広報活動をおこなってきた。依頼があれば出張講座は		

できる体制にあるので、地域からの問い合わせを期待している。

○相談事業者連絡会：令和５年度の取組方針等は資料の通り

- ・今年度はオンラインが３回という実態で、対面会議の意義を感じた年であった。次年度は感染対策をしながら、対面での実施としていきたい。
- ・今年度中に主任相談支援専門員が５名（特定３・委託２）増える予定なので、運営体制についても見直しを図り、地域を担う委託相談と主任相談支援専門員が中心となった連絡会にしていきたい。

【質疑応答】

山崎委員：「子どもの権利条約」を大切にしたいと考えているが、地域や学校などから講師を依頼すれば、こども部会の方を派遣してもらえるものか。」

吉村亮委員：部会として訴えていかなければならないものとは思いますが、協議会の中で、育ちの部分となると、課題が広がってしまう。部会では、＜気がかりな子・特性の強い子＞に関する課題感を抽出して話をしている。子育てについては、そちらの専門分野でお願いしたい。権利条約の中身をわかっていくことは大事なので、協力していけるのであれば協力したい。

平谷会長：強度行動障がいにおいては医療の役割が大きいと思っているが、（当事者数は）どのくらいか。

事務局：サービス上で支給決定している強度行動障がい加算がついている人は、児童（１８歳未満）においては１９名。小学校高学年から中学生が多い。大人は、サービスによって基準が異なることもあり、数はきちんと出せていない状況。

吉村亮委員：前回アンケートを取ったときの大人の数２５０名程であったような。実数は出ていたと思う。

事務局：サービスを重複して利用している方もいるので、現時点での数はすぐに出せない。また、あくまでもサービスを使っている方ということが前提。

平谷会長：１つの施設で強度行動障がい児を５日間預かれるところはどれだけあるだろうか。１日なら見られるといったところはあるだろうが、２～３の事業所を利用してようやくの実態で。

吉村亮委員：部会での医療・教育との連携の中で、医師の参加要請は申し訳ないなという気がするが、会議に呼ぶと来てもらうことは可能か。

平谷会長：クリニックには医者がいないと、診療ができない。日中出かけることは結構厳しく、大変なことである。早めに言ってもらうか、時間を配慮してもらえれば参加はできるかもしれない。

（２）令和４年度運営会議における協議内容の報告について 資料 2

【事務局より報告】

①強度行動障害に関する各専門部会・連絡会における取組

- ・実施内容は資料 1報告の通り。

②協議会への当事者参加に関する事項

- ・当事者参加の在り方について具体的に進めていくため、相談ミーティングで次年度の当事者への聞き取りに向けて動いているところ。

③協議会の運営や体制に関する事項

- ・協議会自体の体制等についての意見があり協議をした。
- ・市としての障がい相談支援体制の在り方の協議の場について：相談ミーティングを協議の場とし、主任相談支援専門員が構成メンバーに加わることにした。

- ・運営委員会の役割について：会長も参加の上、要綱上の「協議の場」を「協議・決の場」とする意見もあり、全体会・運営会議の所掌事項の見直しをする。
- ・個別ケースから挙げられる＜地域課題として検討が必要な課題＞が上がってきていない：相談ミーティングを中心に相談支援事業者連絡会とも連携し、漏れなく検討できる仕組み作りについて協議する。

その他、意見あり（資料参照）

●令和5年度における主な協議等の方針：資料参照

- ・協議会全体の課題として、継続した取組を実施。
- ・当事者参加の在り方について、相談ミーティングの場で引き続き検討する。
- ・協議会の運営や体制に関する事項について：第1回全体会の前に開催する相談支援体制の在り方等、現在も運営委員会にて所掌事項の見直しを実施。

【質疑応答】

吉村亮委員：相談ミーティングは（現在協議できていない）地域課題を検討する場だが、次年度は、当事者参加の在り方・相談支援体制の在り方が加わっている。地域課題があまり挙がってこないから追加するというイメージで捉えてよいか。

事務局：イメージとしては、課題を協議する場としては残しつつ、新たに二つの課題についても協議していく。というのは、当事者関係の課題を協議する場がないというところで、参加者からは合意を得ている。こういう形で進めさせてもらいたい。

吉村亮委員：個別調整会議は自立支援協議会の要である。心配なのは、課題協議の負担感が増し、地域課題の検討が疎かにされてしまわないかといったところ。慎重に考えてほしい。地域課題が出てこないからと、課題の検討がなされないということはせず、しっかり時間を取ってほしい。

事務局：個別調整会議からの協議については、まず委託ミーティングで情報共有をするという流れ。話をしないということはない。

望月委員：個別調整会議については委託の場で話していて、必要に応じて呼ばれるものと思っているが、呼ばれたことはない。その他の意見として挙げたことについてはどうするのか。

事務局：その他の意見については、改選後の役員の方にも相談しながら、と思っているが、課としては、自立支援協議会以外のところでの会議媒体があり、災害のことについても話す機会がある。会議等で、事務局側で整理をしながら、自立支援協議会の3年後に向けた協議に繋げていけたらと考えている。

望月委員：基本計画に意見が反映されないという意見に対し、＜反映していくためにどうするか＞にといった視点がなければ、又3年、そのままになるのではないか。

事務局：基本的には社会福祉審議会において計画の策定や評価を行う。次年度は福祉計画の見直しの時期に入るので、自立支援協議会として意見を聴く場を3回用意している。ご指摘いただいた状況とならないように、自立支援協議会の意見が反映する形を考えている。

吉村亮委員：なぜ反映されなかったかというところは把握しているのか。

事務局：そういったところも含めて、検討していく、

山崎委員：その他の意見に関連して、「ゴミ屋敷があるが、誰に相談したらいいのか」と相談を受けた。障害はあるのかと尋ねたが、障がいはい関係ないだろ

うと言われた。障害認定されないと動けないのか。障害があるために騙されて物を買うということもあるようだ。早めに対応できればいいのだろうが、どう対応したらいいのか。

事務局：福祉総合相談室よりそいがあり、重層的相談支援を実施している。そこに連絡してもらえれば案内なり相談は対応している。

(3)令和5年度全体会及び各専門部会の構成(案)について 資料3

【事務局より報告】

資料の構成と令和4年度・5年度の大きな変更点について説明。

- ・正式に決まっていない部会もあるので、委員としての推薦依頼先の所属を記入。
- ・こども部会：特別支援学校の持ち回りから、所管している高校教育課の特別支援教育室の担当者参加に変更。
- ・就労支援部会：福井市障がい者雇用促進事業、A型・B型事業者を各1名増。

(4)日中サービス支援型共同生活援助事業所の実施状況報告及び評価について 資料4

【事務局より評価方法に関する説明】

評価シート記入の協力(終了後または後日)を求める。

【モストヴィレッジ和田より報告】

No. 23、24は重複のため、1項目削除。

【質疑応答】

望月委員：3か月に2回訪問しているが、利用者の方は穏やかに過ごしているようだ。気になっているのは、こういった事業所が増えないこと。一択では、と思うのだが、福井市としてはどう考えているか。

事務局：相談を受けて説明をすることはあるが、申請には至っていない。

望月委員：基本計画等の策定にあたって、重度の方の生活の場をどうしていくかといったことを真剣に市としても考えていてもらいたいし、事業者の方にも作ってもらいたい。

吉村宣委員：グループホームは住まいの場であるため、日中活動と別れず、ずっと一日中家の中で過ごすということは、本人にとって辛いことと考える。しかし、日中活動の場がなく、家族とともに暮らすことが難しければ、日中サービス支援型は必要となってくるのかとも思う。実際、多くのグループホームができていて、連携がうまくいっていないところもある様子。軽度の方が対象のグループホームばかりができていて、自立していないといけないとか、日中活動には自分で行けないといけないといったところもあるようだ。モストヴィレッジで穏やかに暮らせていることは。環境が変わることが苦手の発達障がい者等が一貫した体制の中で暮らせるという点からいいことなのかもしれないが、すべてを日中支援型で賄っていくということであれば、福井市の基本計画はいかななものかとなると思う。利用者から「親のところで暮らしたい」とか、「なんグループホームにいなあかんのや」といった声を聴く。支援者は親にはなれないが、障がいのある方々が彼らの望むところで暮らせるような改善に向けてもらいたい。必要な方は、日中支援型でよいが、行き場がないからといって日中支援型グループホームにずっといなければいけないということだけは避けてほしい。



その他	<p>令和4年度地域生活支援拠点事業の実施状況報告及び評価について 【事務局より報告】</p> <p>拠点に関する説明を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的：親亡き後への備え、地域移行の促進、重度障害の対応可能な専門性の確保、緊急事態への対応</li> <li>2. 機能：相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制作り <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度より多機能拠点整備型でスタートしたが、1法人では3障がいへの対応が十分に行えないという実態顕在化した。</li> </ul> </li> </ol> <p>⇒本年度より、面的整備型に変更したという経緯がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追加資料②：（様式1）地域生活支援拠点等の機能・運営状況の評価に係る総括表に沿って説明。※ガイドラインが市のHPに掲載されていることも併せて報告</li> <li>・協議会の評価箇所のプルダウン選択及び自由記述欄への記入協力等の依頼。</li> <li>・次年度の協議の方向性については、追加資料資料5－3に沿って説明。</li> </ul> <p>【質疑応答】</p> <p>吉村亮委員：相談については、充実した状況ですごいと思う。一方、緊急の対応のところは、横のつながりを作っていこうとしている段階と受け取れるが、それで、緊急時対応はできるものか。</p> <p>事務局：障害児通所支援事業所であれば児発管ミーティング、就労支援事業所であれば各ネットワークミーティングがあると思うが、緊急事例を受け入れる短期入所事業所の横の繋がりが無いというのが実態。緊急事例を受け入れた実践例を共有することで、受け入れもしやすくなるといったところを狙いとしている。</p> <p>吉村亮委員：緊急時の定義というところを先ほどガイドラインで説明してもらえたのでよかった。1週間という規定は、この間に整えるというイメージか。</p> <p>事務局：拠点は定着する場所ではないので、まずは緊急一時的に受け入れてもらい、1週間でコーディネートし、在宅に戻るなり、医療に繋ぐなり検討してもらいたい。</p> <p>望月委員：令和4年度に面的整備になったことは、本当に驚いた。他の市町もそうしているからといった変更理由であったが、変更後の今年度1年間はコアメンバーでワーキングを行ってきて、ここまで協議できたことはすごいと思っている。福井市行政が本気になって、拠点を何とかしようとしているのだと思う。拠点の整備は最後の福井市のセーフティネットと思っており、ここが支える仕組みとしてしっかり機能すれば、安心だと思う。</p>
-----	---